



「地域学校協働活動だより」は枕崎市のホームページにも掲載されています。スマホで読み取ったりパソコンで検索して、カラー写真付きの記事をご覧ください。

～別府校区の自然と史跡を再発見 ふるさとの景観学習～ 別府小学校

別府小学校では鹿児島県地域政策課の支援を受けて、6年生28人が「かごしま景観学習」に取り組んでいます。昨年度から行っている取組で、別府校区の魅力あふれる「景観」の大切さに気付き、郷土に対する誇りを持つことを目的としています。今年度は6月4日と13日の2回の校外学習を行いました。

別府小学校では鹿児島県地域政策課の支援を受けて、6年生28人が「かごしま景観学習」に取り組んでいます。

6月4日の第1弾では、MBCテレビ「てげてげ」の「田の神さあクエスト」のコーナーで人気の東川隆太郎さんを講師に招き、茅野の田の神や山崎の五輪塔群など7か所の史跡を巡りました。東川さんは探検名人で鹿児島の歴史に大変詳しい方ですが、別府の史跡について驚くほどの情報をお持ちで、まるで当時を知っているかのように、様々なエピソードや裏話を交えながら軽妙に説明していただきました。

6月13日の第2弾では、別府地区公民館長の眞茅学さん、主事の俵積田則清さんのお二人を講師に招き、犬の白浜や、今嶽神社など5か所を巡りました。お二人には各所についてとても分かりやすく説明していただき、別府ならではの美しい景観、豊かな自然が織り成す造形美、神秘的なパワースポットなどをたっぷり堪能することができました。

6年生は、これらの活動により、「別府の良さ」を改めて実感することができ、「ふるさと別府」を誇りに思う気持ちが更に強まったと思います。今回の学習の成果を子供たちがどのようにまとめ、発信していくのかがとても楽しみです。



茅野の田の神について説明する東川さん



ボランティアに見守られて横断歩道を渡る

子供たちは、交通安全協会の方に「横断歩道を渡る時は、左右を確認して手を上げて渡る」などの指導を受けて、車に気を付けながら元気にまち探検をしていました。

～ボランティアに見守られて 「まち探検」～ 枕崎小学校

枕崎小学校では、5月21日に2年生の「まち探検」があり、2クラス48人の児童が交通安全協会のボランティアの方々に見守られながら、片平山公園まで歩いてまち探検に出かけました。

「どきどきわくわく まちたんけん」というテーマで、学校の周りにどのような施設があるのか確認しながらの楽しいまち探検でした。

子供たちは、交通安全協会の方に「横断歩道を渡る時

～「金山カルタ」で高齢者と交流 4年生 校外学習～ 桜山小学校

地区公民館で金山地区の高齢者と「金山いろはカルタ」で交流を行いました。

金山小学校は、2014年に桜山小学校と統合して閉校し、121年の歴史に幕を閉じましたが、「金山いろはカルタ」は、閉校の2年前に関利治さんを中心に作られた、金山地区の歴史や情景を48枚の「いろは歌」にしたカルタです。

子供たちは、A3判の大札と通常サイズの取り札を使って「金山いろはカルタ」を体験しました。初めてカルタをする子もいましたが、みんなで楽しむことができました。2回目には、下の句を覚えている子もいました。学校ではできない貴重な交流ができました。

桜山小学校4年生21人は5月24日に校外学習で金山地区を巡り、金山浄水場と田布川ビオトープを見学した後、金山



大札の下の句を探して走り回る子供たち

立神地区公民館の青少年講座「民話と七夕飾り」が、6月22日に立神海の風こども園「キッズ」で、立神海の風こども園と火の神保育園の学童の小学生30人が参加して行われました。

～「織姫と彦星」の民話の読み聞かせと 七夕飾り作り～ 立神地区公民館



「たなばたクイズ」で盛り上がる

読み聞かせボランティアグループ「おひさま」の古木千恵美さんと眞茅弘美さんにおいでいただき、最初に「手遊び」で子供たちとの距離をぐっと近づけることからスタート。そして「織姫と彦星」の絵本と七夕まつわる紙芝居の読み聞かせをして、「たなばたクイズ」で盛り上がりました。

その後子供たちと一緒に短冊に願い事を書いたり、折り紙で七夕飾りを作りましたが、輪つなぎや四角つなぎ、網飾り、提灯など、色とりどりの飾りを作って、笹の葉に飾り付けました。最後はみんなで「ささのはさらさら～♪」と、「たなばたさま」の歌を歌って、願い事が叶うように祈りました。

～防災訓練で炊き出し体験 アルファ米を調理～ 平田潟公民館

枕崎校区の平田潟公民館の防災訓練が6月23日に妙見センターで行われ、住民約30人の参加で子供たちも元気良く集まりました。平田潟地区は花渡川沿いの低地にあり、平成12年に花渡川と中洲川が改修されるまでは、台風や梅雨の大雨の時に、毎年のように浸水の被害にあっていました。

平田潟公民館では毎年防災訓練を行っていますが、今年は「防災炊き出し訓練」と銘打って、非常食のアルファ米を配布して、参加者が実際にお湯を入れて調理する炊き出し体験などを行いました。

アルファ米の袋の中に入っているスプーンと脱酸素剤を取り出し、袋の底を広げてお湯を入れ、スプーンでかき混ぜてからチャックを閉めて15分待ちます。底を広げずにお湯を注いで袋が倒れたり、中をかき混ぜなくて底の方に具材が固まったりしましたが、災害時に備えて、あらかじめ作ってみることで、良い訓練ができました。

出来上がったアルファ米は、配布された豚汁と一緒に参加者みんなで美味しくいただきました。



防災炊き出し訓練でアルファ米を調理